

# WEEKLY

# 一宮

題字 PG 安野謙次



重文「陵王」面 真清田神社蔵

## Rotary



### The Rotary Club of Ichinomiya

●例会日 木曜日 ●例会場 一宮商工会議所 ●承認日 昭和24年12月31日  
●事務局 一宮市栄4-6-8 一宮商工会議所ビル5階 電話(0586)24-1931 ☎491-0858



## ロータリー:変化をもたらす

URL:<http://rc138.org>

E-Mail:[rc138@lily.ocn.ne.jp](mailto:rc138@lily.ocn.ne.jp)

## 2017年9月28日 第3305回例会

会 長 青山 佳裕 副 幹 事 山口 元彦  
幹 事 関戸 徹 副 会 長 船橋 正員  
会長エレクト 榊原 讓 会報委員長 渡邊 肇

### プログラム

#### 卓話

#### 横山みどり氏

#### 一般社団法人

#### ビジョンクリエイティブコーチ協会代表理事

#### テーマ「人を活かすコミュニケーションコーチング」

### ロータリーソング「それでこそロータリー」

### 第3304回例会の記録 2017年9月21日(木)

#### 会長挨拶

青山佳裕

こんにちは！今日、新会員「大鹿晃裕さん、吉田真人さん」が入会されます。会員総勢106名となりました。ありがとうございます。後ほど、榊原 讓さんよりご紹介させていただきます。そして、卓話に山上国際奉仕委員長の紹介でワインのお話を「フランス・アルザス日本代表、後藤淳子さん」をお招きしています。よろしくお祈りします。

秋分の日を迎え、お彼岸では、仏さんのお磨き、仏花の取替え、墓の掃除を母親が気忙しそうに指図しています。お供えにおはぎを作り、山盛りにして供え、そして、美味しく、嬉しそうに、いつも「よおー、よばれた！」(頂けた、という意味)。元気でなによりです。＜我が家では、秋分の日には「おはぎ」チョット小さ目です。春は「ぼた餅」大き目で半つき餅＝要は同じものですけど＞

#### ロータリーの友9月号 委員長 浅井孝介

9月は「ロータリーの友」月間と言うことで、横組みの7頁から12頁までに渡り、「ロータリーの友」とはどんな機関雑誌なのかを詳しく説明されております。今月は、その内容を取り上げたいと存じます。創刊は、1953年1月で毎月発行され、今年の1月で創刊64年になります。今年の8月号より表紙が写真からイラストに変わりました。横組みの表紙は、RIの特別月間・RIで強調している活動を、縦組みの表紙は、日本の季節感を盛り込んだイラストになっています。

### 次回の予定

米山月間卓話  
儲 葉明君

#### 横組みと縦組みの記事の違いは？

横組みは、RIからの情報・特別月間に関する特集・地域雑誌として掲載しなければならない情報(RI指定記事)が掲載されております。

9月号のRI指定記事は、横組み3頁のRI会長メッセージと、20頁からの2018年国際大会開催都市のトロントの特集が組まれておりますので、是非、ご一読下さい。

縦組みは、日本国内の仲間同士の交流の場として、各ロータリークラブの活動報告・卓話の泉・書籍の紹介・俳句など投稿を中心として構成されています。「眠れないときに『友』を読むとすぐに眠れる」と仰るメンバーもいらっしゃる様ですが、是非、もっと有効に活用して欲しいと言うのが、編集者の願いだそうです。

#### 委員会報告

##### 出席報告

委員

石黒敬康

現在の会員数	106名
本日のビジター	0名
本日の出席数	63名
他クラブ出席数	10名
本日の出席率	68.86%
前々回の出席率	97.82%

##### ニコボックス

☆ 山上哲司君

本日の卓話講師にフランス・アルザス日本代表部・代表、後藤淳子様をお迎えした喜びで。

☆ 榊原 讓君

修文学院の吉田さん、大鹿株式会社の大鹿さんの2名が本日より一宮ロータリークラブの仲間になります。皆様宜しくお祈りします。

☆ 大鹿晃裕君

歴史と伝統ある一宮ロータリークラブに入会させて頂きましてありがとうございます。

☆ 吉田真人君

歴史と伝統ある一宮ロータリークラブに入会させて頂きました。

☆ 足立 誠君

同じ私学経営者の新入会員、吉田先生の御入会おめでとうございます。

☆ 青山佳裕君 関戸 徹君

本日の卓話講師に、フランス・アルザス日本代表部代表、後藤淳子様をお迎え出来た喜びで！！

新入会員として大鹿晃裕さん、吉田真人さんをお迎え出来た喜びで。

\*\*\*\*\* プログラム \*\*\*\*\*  
 後藤淳子氏  
 (フランス・アルザス日本代表部・代表)  
 テーマ「アルザスと日本 強い絆」



皆様はアルザスというところをご存じですか。アルザスと聞かれて何か思い浮かぶものがありますか。何人かの方は、国語の教科書に取り上げられていたアルフォンス・ドーデの「最後の授業」の舞台としてアルザスという地名をご存知でしょう。また、観光地として、世界遺産のストラズブールやコルマール、ワインに詳しい方なら、アルザスワイン街道やアルザス名産のリースリングやゲベルツラミネールといったその芳醇な白ワインを思い浮かべる方もいるかもしれません。アルザスは風光明媚で、ぶどう栽培をはじめとする農業の盛んな地である一方、フランスにおいて国内総生産第2位という、非常に工業の発達した地域です。近年では、欧州議会の本部がストラズブールに設置され、アルザスはヨーロッパの首都として注目されています。また、日本とアルザスは長年に亘り特別な交流が続けられています。

本日は、アルザスの歴史、文化、そして日本との強い絆、とりわけここ一宮とのゆかりある一面をご紹介します。アルザス地方はフランスの北東、ライン川を挟んでドイツ、スイスとの国境にあります。南北に約200Km、面積は約 8,300K m<sup>2</sup>(愛知県の約1.6倍)、人口は約200万人です。2016年以降フランス地方の統合により、アルザス-ロレーヌ-シャンパーニュ-アルデンヌ地方を統一して、「グランドエスト(フランス東部地域圏)」と呼びます。アルザスには代表的な3つの都市があります。

●ストラズブール

「街道の街」を意味する「ストラズブール」は、まさに欧州の十字路に位置する国際都市です。欧州議会、欧州評議会などEUの主要機関が設置され、日本国総領事館もあります。イル川に囲まれた街全体がユネスコの世界遺産に登録され、建築から1000年以上も経つストラズブール大聖堂が有名です。

●コルマール

アルザスワインの集積地として中世の街並がそのまま残る「フランスの美そのもの」と言われる街です。奇跡的に戦火を逃れた旧市街は13世紀から17世紀にかけての貴重な建築物が残っており、木組みに漆喰を施したコロンバージュと呼ばれる家々が特徴的です。修道院を改修してできた「ウンターリンデン美術館」はヨーロッパの必見美術館に選ばれています。

●ミュルーズ

ミュルーズは18世紀から繊維染色業で栄えた、ハプスブルグ家ゆかりの自由都市です。現在も長い伝統と高い技術を持つ繊維、染色業者が集積し、化学、自動車、航空産業が盛んです。来年は「日本年」を掲げ、日本との様々なプロジェクトを推進しています。

日本とアルザスの関係は 150 年前に遡ります。ここで注目していただきたいのは、日本が初めてアル

ザスと交流を持ったのが 19 世紀半ばと、ヨーロッパにおいても最も早い時期だったということです。それは日本が鎖国に終止符を打ち、世界に向けて門戸を開いた時期でした。開国にあたり、日本の商人たちは国内市場向けの製品製造のため、当時技術がより進歩していたヨーロッパへ向かいました。

1863 年以降、日本の商人達が世界の繊維業界を牽引していた都市ミュルーズに日本の和柄図案を持ち込み、日本市場向けにアルザスの羊毛生地への染色・製造を依頼しました。『19 世紀のミュルーズの産業』という著作には注文記録が残されています。これらの図案がプリントされた羊毛布地のモスリンは、1864 年に船で日本へと逆輸入されました。これらの製品は着物に仕立てられ特に冬の衣類として重宝されました。一宮は世界に誇る繊維産業の街ですが、ミュルーズも繊維産業で当時世界をリードしており、日本とアルザスの交流がこの繊維産業の発展から始まったということは大変興味深いことだと思います。その後も交流は続き、経済界だけでなく、芸術分野においても重要な役割を果たしました。日本からアルザスの捺染業者に送られた数々の図柄はヨーロッパの人々にとっては初めて日本様式(意匠)の発見であり、モネやゴッホに代表される「印象派」や「アール・ヌーボー」といった芸術様式の誕生に多大な影響を与えました。ミュルーズ染色博物館には 1863 年当時の模様や見本が数多く所有されており、これらは「日本・アルザス友好 150 周年」記念事業において初めて一般公開されました。このような交流が様々な分野において現代まで引き継がれた結果、アルザスは日本と特別なパートナーとなりました。同時にアルザスにおいては日本ブーム「ジャポニズム」が興り、アルザス地方の美術館には日本美術品の重要なコレクションが今なお保存されています。この日本とアルザスの友好関係は中断されることはなく、19 世紀末以降多くの日本人学生がストラズブール大学に留学しており、後の昭和天皇である裕仁皇太子は 1925 年にアルザスをご訪問されました。また同時に文化・学術交流も盛んに行われ、多くの芸術家が度々アルザスを訪れています。例えば、宮崎駿監督の映画「ハウルの動く城」ではアルザスの街並が映画の主な舞台として度々登場します。また、アメリカの自由の女神像の作者、オーギュスト・バルトルディはコルマールの出身であり、人道主義のシュバイツァー博士もアルザス出身です。

犬山にあるリトルワールドにはアルザスの本物の家が3棟移築され、毎年アルザス人の女性が来日し、日本との懸け橋となっています。そして、特にこの 30 年来は、多くの日本企業がアルザスに進出し、経済分野において関係が強まっています。株式会社バルダン様もアルザスにご進出いただき、ヨーロッパ事業を推進しておられます。現在は日本企業に向けたビジネスインキュベーターがヨーロッパで唯一アルザスに開設され、日本企業のヨーロッパ進出に対するあらゆるサポートを行っています。今頃のアルザスは、ぶどう畑が黄金に色付き、村々は収穫祭で賑わっています。

11 月末からはクリスマスマーケットが始まり、街は華やきます。クリスマスツリー発祥の地はアルザスです。このように、伝統、文化、ヒューマン気質にあふれ、日本とも強い絆をもつアルザスを身近に感じていただき、ぜひ一度訪れてみてください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

例会変更案内

クラブ名	例会日	例会場	受付
尾西	10月 2日(月)	尾西信用金庫本店	有
尾西	10月16日(月)	尾西信用金庫本店	有
尾西	10月23日(月)	尾西信用金庫本店	有
あま	10月16日(月)	名鉄グランドホテル11階	有

※ 時間に指定のないクラブの受付は 12:00~12:30 です。